

# 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

町田市立相原小学校

6年1組・2組 54名

指導者 三浦 幸太

鈴木 拓朗

1. 単元名 「 夢プロジェクト 」

2. 単元目標

調べ学習や様々な職業の人々との交流を通して、働くことの意義や社会とのかかわりについて理解を深めるとともに、働く人々の思いに気付き、自己の将来の夢や目標について考えながら、学んだことをこれからの生き方や生活に生かそうとする。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様々な職業の特徴や良さ、そこで働く人々の思いがあることを理解している。 ・自分の夢や希望を実現するためには、その特徴に合わせて努力しなければならないことを理解している。	・将来や夢について理想との隔たりから課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ・収集した情報から、将来の夢の実現に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ・伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	・様々な職業の方との交流を通して、得た知識や自分と違う考えを生かしながら、課題解決に取り組もうとしている。 ・課題解決の状況を振り返り、自己の将来の夢の実現のために、課題の解決に向けてあきらめずに取り組もうとしている。

4. 単元について

(1) 単元設定の理由

小学校6年生は、自己と他者の違いを理解し始めるとともに、社会の中での自分の役割や将来像について関心を持ち始める時期である。そうした時期に、地域の中で実際に働いている人々と出会い、対話を通して仕事のやりがいや社会への貢献について知ることは、働くことの意味や自分の生き方について考える貴重なきっかけとなる。そこで本単元では、地域の職業人との交流、インタビュー、調べ学習などの体験的活動を通じて、地域社会への理解を深め、自分自身の興味・関心について考えることを目指す。さらに、自らの考えを発表形式で表現することで、自己理解と自己表現力を育て、将来の生き方を展望する力を養う。

(2) 児童の実態

最高学年になってからは、様々な場面で与えられた役割に、責任をもって取り組む姿が多く見られるようになった。委員会やクラブ、たてわり班の内容を考えて実行し、目的意識をもって学校全体に関わる経験を積み重ねている。

本研究の授業を行うにあたり、事前アンケートを実施した。アンケート結果から、「将来なりたい職業が決まっている」が29人。全体の56.9%である。「決まっていない」22人の児童の理由として、「目標がない」、

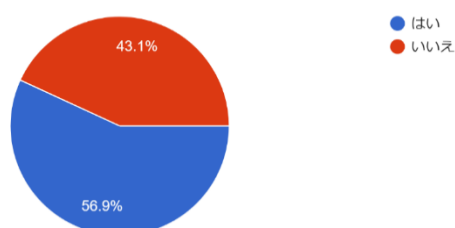
「仕事の内容が分からない」、「なりたい職業に悩んでいる」などが挙げられる。自分の良さや可能性を客観的に捉え、将来の夢や希望に憧れる自己イメージを獲得できている児童が少ないと考えられる。

与えられた役割だけでなく、社会や自分のために、未来の自分について考える大事な時期であるため、社会的・職業的自立にかかる基盤形成を行っていく。

【事前アンケート：調査人数 51人】※その他回答は別紙参照

1. なりたい職業は決まっていますか。

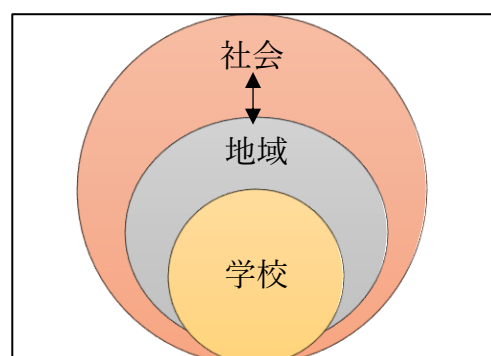
51 件の回答



## 5. 校内研究との関わり

### (1) 高学年部会として研究テーマの捉え方

今年度の校内研究のテーマである「地域との関わりを通して共に学びあい高め合う児童の育成～地域の特色を生かした相っ子学習の充実～」を受けて、高学年では学校の 自然や人、もの・ことに関わり、児童の興味・関心の範囲を地域から社会、社会から地域へと往還し、広げていくことを通して、「探究的な学習を進めていくなかで、地域の関わりや体験活動を生かしながらよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく児童の姿」を目指す。



### (2) 単元における研究テーマとのかかわり

- ・生きて働く力…具体的な社会や人との出会いを通して、自己の可能性や価値観を自ら見つめる機会を設定
  - ↳ インタビュー
- ・未知の状況にも対応…興味・関心に根ざした問いを出発点に、自ら調べ、考え、表現する学びの過程を重視
  - ↳ 職業カテゴリーの選択
- ・人生や社会に生かそうとする…地域との交流から、学びの主体性や社会参画意識の育成
  - ↳ ふり返し活動

(3) 研究テーマに迫るための具体的な手立て(より具体化、手立て・昨年度からさせたいこと)

### ① 指導計画の工夫

- ・相原の地域から人・自然・もの(こと)を学ぶ指導計画
- ・教科横断的に学びをデザインするカリキュラムマネジメント

### ② 課題設定の焦点化

- ・アンケートを取り、職業に対する意識を教員が把握
- ・児童が学習したい内容を生かした課題設定

### ③ 振り返りの工夫

- ・学びの記録を視覚化し、成長の実感をさせる。
- ・視覚化した学習の記録から、学びの流れを次の学習に生かす。

(4) 研究授業の視点

- ・教師の問いかけや関わり方は、児童が探究課題(明確化)に沿った思考をもつことができたり、話し合いを活性化させたりすることに活かされていたか。

## 6. 指導計画(40時間)

過程	時間	学習活動
一次	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育・働くことの意味について共通理解を図る。</li> <li>○「仕事」について考え、将来どのように仕事を選ぶのか、選ぶときに重要なことは何なのかを考える。(地域にある職業→社会にある職業)</li> <li>○職業をカテゴリー別に分け、グループ作成を行う。</li> <li>○仕事に就くときに重要だと思うことについて調べ、話し合う。</li> </ul>
二次	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタビューを通して知りたいことを整理・分類する。(本時)</li> <li>○実際に働いている大人はどのような視点や経緯で職業を選択しているのかインタビューの準備をする。</li> <li>○アポイントを取る。</li> <li>○インタビュー</li> <li>○インタビューしたことをもとに自分たちの考えた視点と比較する。</li> <li>○どのような視点で職業を選択するとよいかを話し合う。</li> <li>○職業体験・見学</li> </ul>
三次	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループでまとめたことを発表する。</li> <li>○2次の活動で話し合ったことや、自分自身を見つめなおして、自己の将来について考える。</li> <li>○自己の将来の夢の実現に向けて今、自分ができることや努力したいことを考える。</li> <li>○調べたことや今自分ができることや努力したいことをまとめ、発表する。</li> <li>○事後アンケートに取り組む。</li> <li>「今の自分」について、「未来の自分」に向けて取り組むこと</li> </ul>

※児童の実施状況に応じて学習活動時間を調整

## 7. 本時の学習活動

### (1) ねらい

- ・インタビューを通して知りたいことを整理・分類する。

### (2) 展開

時間	児童の活動	○留意点 ☆評価
導入(5分)	・ 本時の活動を把握する。	○ 前時まで活動してきた内容を想起させる。
展開(35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループでインタビューを通して聞きたいことを出し合う。(7分)</li> <li>・ 各グループで共有する。(5分)</li> <li>・ グループで聞きたいことを増やす。(5分)</li> <li>・ 聞きたいことを整理・分類する。(10分)</li> <li>・ 各グループで共有する。(5分)</li> </ul>	<p>○ これまで調べたことや、これからさらに調べたいことを出させる。</p> <p>○ リーダーを決め、意見の取りまとめを行わせる。</p> <p>○ マトリクス図を使い、分類させる。</p> <p>☆ インタビューを通して知りたいことを整理・分類している。</p> <p>(発言・行動)</p> <p>○ 各グループが精査した意見の共通点について考えさせる。</p>
終末(5分)	・ 次時の活動に見通しをもつ。	

### ○成果●課題

○ 相原に住んでいる人や町田にある企業など、地域の人とのかかわりの中で課題を解決していく中で様々な人と出会い、課題解決にじっくり取り組むことで、複数の事柄が関連付いていることに気付くことができた。

○ 体験活動を重視し、学習活動とのかかわり方を工夫することで、児童が課題解決に意欲的に取り組むことができた。

○ 国語の学習で身に着けたインタビューをするという技能を、様々な職種の方にインタビューをしたり、算数で学習した技能を活用し、統計をとったものをグラフ化したりすることにより、学習したことを汎用的に活用する力を高めることができた。

○ 社会科で学習した米作りについて学んだことを実際に体験することにより、米を生産する人々の苦労や願いをより深く理解することができた。

○ なりたい職業などについてのアンケートを取り、児童が興味のある職業をカテゴリー別に分け課題を設定するなど、教師が意図的な働きかけをすることで、意欲を継続して課題に取り組むことができた。保護者

● 情報収集の方法がインターネットに頼りがちになってしまった。様々な手立てを教師側が想定し工夫する必要がある。

● 児童が自ら課題を設定することを重視したが、児童の願いをすべてかなえることが難しかった。教師が計画的に早い段階から計画することが必要であった。

